

新・水土を守る人々

地域を守り続けて140年、
明治用水土地改良区を紹介します！

1. 紹介して下さる方

明治用水土地改良区 水源管理所

水源係 鈴木 智保

昭和62年 岡崎市生まれ

平成18年 愛知県立安城農林高等学校 卒業

【一言メッセージ】

安城農林高等学校を卒業し、人々の生活に役に立つ仕事がしたいという思いから、明治用水土地改良区に就職しました。

趣味は釣りや登山です。

地域の人々の生活を守るために全力で頑張っています！



【私（鈴木）と明治用水頭首工】

2. 水土の歴史

今回は、私の在籍する明治用水土地改良区を紹介します。

明治用水土地改良区は、主に明治用水頭首工と井筋及び小幹流^{しょうかんりゅう}と称する水路の維持管理を行っており、私が勤務する水源管理所（場所は明治用水頭首工の右岸側）では、頭首工や分水施設のゲート操作を遠方監視制御システムによって行っています

明治用水は、今から200年以上前、文化文政年間の用水路開削計画に始まり、その後、幾多の困難を経て、明治13年に通水を開始しました。明治用水の通水により、地域の農業が急速な発展を遂げ、大正末期には当時の理想的な農業国の名を冠し、安城市を中心に、この地域は「日本デンマーク」と呼ばれました。また、明治用水頭首工で取水した用水は、農業用水はもとより上工水としても使われており、地域の重要な水源となっています。

3. 水土を守る苦勞・エピソード

日常的な業務では、主に管理所内のグラフィックパネルに表示される各分木工の水位や流量のデータを見て取水ゲートを操作し、配水管理を行っています。その他にも、頭首工の水位管理や漏水管理、除塵機の操作、各種機械設備の点検などを職員 5 人で日勤夜勤を交代しながら 24 時間体制で行っています。

配水のための機械操作が業務の中心になっているので、メカニカルトラブルが起こると怖いですね。以前、夏場の夜勤の時に、ヒューズが飛んでパネルの取水量表示が消えてしまい、操作

盤も操作ができなくなって慌てたことがあります。その時は、他の職員に電話をかけて来てもらい事なきを得ましたが、なんとも苦い経験でした。また、システムが新しくなると操作方法も変わるため慣れないうちは戸惑います。夏期通水中はゲリラ豪雨や台風、雷などによるトラブルもあります。農業や工業に毎日使われている用水を止めることはできないので、こういった不測の事態にも冷静に対応できる能力をつけたいといけなと感じています。トラブルが起きたときは、対応方法を記録してみんなで共有し、今後に活かせるようにしています。

機械操作を主な業務としていますが、たまに頭首工の上流側でボートなどの水遊びをしている人がゲートのすぐ近くまで来てしまうといった危険な行為も見られるので、頭首工周辺の様子の確認もしています。必要なときは拡声器で注意を促すなど事故のないように気を配っています。



【除塵機での除塵作業】



【水位・流量を確認してゲート操作をしています】

4. 水土を守ることへのやりがい・思い

基本的に監視業務中心のため水源管理所外の方との関わりは多くはありませんが、自分が取水操作をすることで、下流で水を使用している受益農家や工場、一般家庭など、たくさんの人たちの暮らしに役立っていることにやりがいを感じています。

水源管理所の職務は問題なく水を送ることができて当たり前というのが前提で、誰かに称賛されるとき感謝されるということはありません。毎日を事故なくおくることが私たちの最大の責務であると思っています。なので、何かとトラブルの起きやすい夏期通水を無事乗り越えたときはほっとします。

また、以前工務課に所属していたときは、水路のパイプライン化工事や漏水修理を担当しており、地元の方から感謝の声が聴けると本当に嬉しかったです。そのときは経験不足で分からな



【遠方集中監視手動制御施設】



【中根所長(左)と私(右)】

いことばかりだったので、工事現場の方々にいろいろと教えていただきました。仕事が辛いと感じたときもありましたが、職場の先輩や各方面の方々に支えられてここまでやってこれることができました。中根所長に評価していただいた「何があってもめげない心」を強みに、明治用水の受益地の皆さんの生活を陰ながら守っていけるよう今後も職務に励んでいきます。

【取材：東海農政局 設計課】